

2026年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2025年8月8日



品川リフラクトリーズ株式会社

目次

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA・営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高及びEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 地域別の売上高
9. 2026年3月期の通期業績見通し
10. 2026年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）
11. トピックス①（企業理念の再構築）
12. トピックス②（社名変更および新しい企業ロゴの制定）

1. 連結業績ハイライト

(単位：億円)

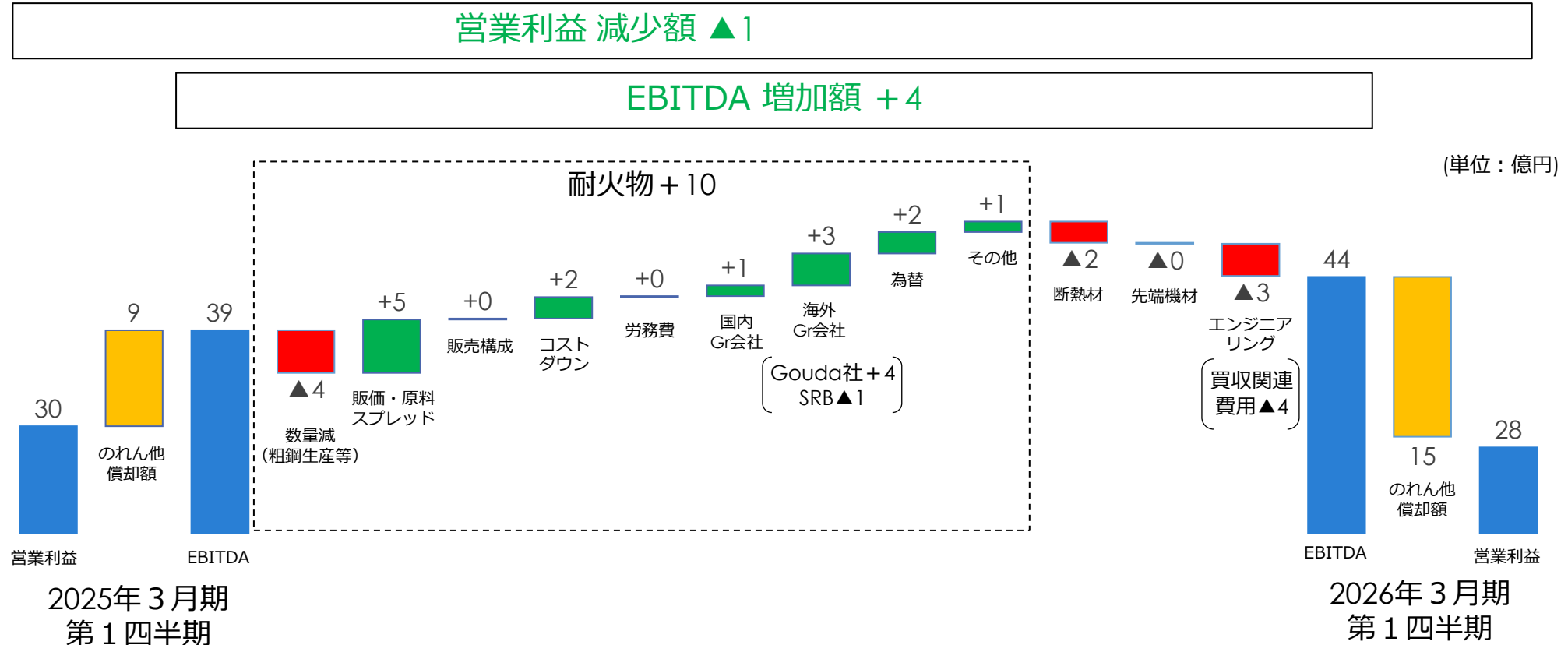
	2025年3月期 第1四半期 実績	2026年3月期 第1四半期 実績	前年同期比
売上高	338	382	+43 (+13.0%)
EBITDA	39	44	+4 (+11.5%)
営業利益	30	28	▲1 (▲5.3%)
経常利益	36	30	▲5 (▲14.3%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	29	17	▲11 (▲39.7%)
<指標> EBITDAマージン	11.7%	11.5%	▲0.2pt
ROS（営業利益率）	9.0%	7.6%	▲1.4pt
ROIC	7.8%	5.1 %	▲2.7pt
DEBT/EBITDA倍率	0.6倍	3.0倍	+2.4pt

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2026年3月期 第1四半期 国内粗鋼生産量は前年同期比5.1%減の2,016万トン。
- 売上高は、耐火物セクターにおいて、国内粗鋼生産量の減少に加えて、海外においてもお客様の活動水準の低位継続および競合環境の激化により販売数量が減少したが、新たに加わったオランダのGouda Refractories Group B.V.（以下、Gouda社）の業績が寄与したこと、さらにエンジニアリングセクターにおいて大型工事案件の工事進捗に伴う売上計上により、全体では増収を確保。
- 損益については、耐火物セクターの増益があったものの、断熱材・先端機材セクターの需要環境の悪化によるマイナス影響、またエンジニアリングセクターのブラジルのReframax Engenharia Ltda.（以下、Reframax社）の買収に伴う一過性の関連費用計上（4億円）、さらにのれん他償却額の増加もあり、営業利益以下の各段階利益は減益。但し、EBITDAは増益を確保しており、**前述の一過性要因を除くと営業利益も増益。**
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に対し多額の固定資産売却益がないことから減益要因となった。

2. EBITDA・営業利益の増減要因



- EBITDAは+4億円の増益を確保。耐火物セクターでは販売数量の減少があったが、販価・原料スプレッドの改善、コストダウン等に加え、海外グループ会社の業績も寄与し、増益。断熱材・先端機材セクターは需要環境の悪化により減益。エンジニアリングセクターは一過性の買収関連費用計上（4億円）があり減益。
- 営業利益は、のれん他償却額の増加があり▲1億円の減益。**但し、前述の一過性要因を除くと増益。**

3. セグメント別売上高及びEBITDA

(単位：億円)

		2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期実績	前年同期比	
耐火物	売上高	231	262	+30	(+13.1%)
	EBITDA	23	34	+10	(+45.4%)
断熱材	売上高	41	38	▲2	(▲6.3%)
	EBITDA	9	7	▲2	(▲23.1%)
先端機材	売上高	10	9	▲0	(▲7.2%)
	EBITDA	1	0	▲0	(▲87.1%)
エンジニアリング	売上高	57	72	+15	(+26.3%)
	EBITDA	3	0	▲3	(▲96.7%)
その他（不動産）	売上高	2	2	+0	(+1.7%)
	EBITDA	1	1	+0	(+2.4%)
合計	売上高	338	382	+43	(+13.0%)
	EBITDA	39	44	+4	(+11.5%)

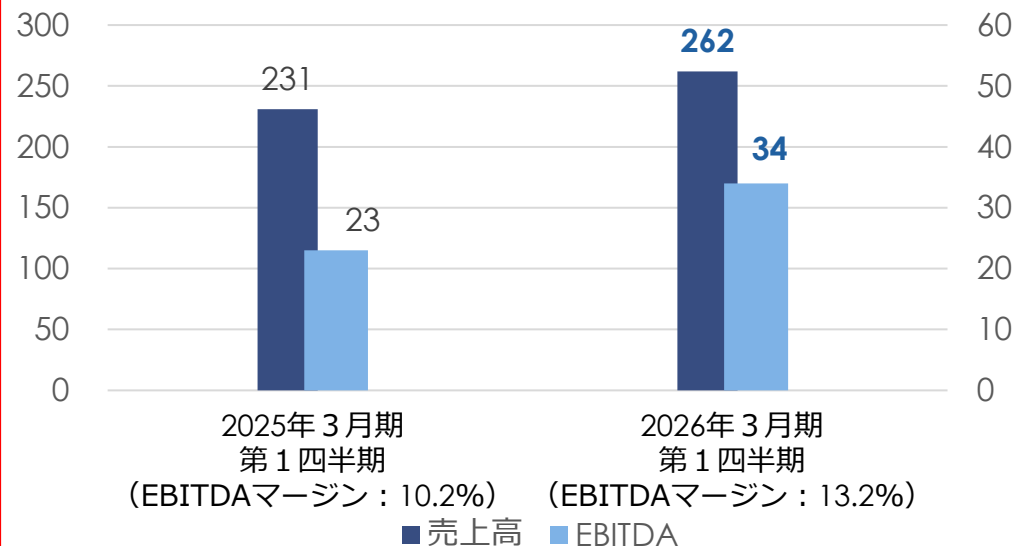
注：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

4. セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	231	262	+30 (+13.1%)
EBITDA	23	34	+10 (+45.4%)
営業利益	18	22	+4 (+25.1%)
EBITDAマージン	10.2%	13.2%	- (+3.0Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶国内粗鋼生産量の減少に加えて、海外においてもお客様の活動水準の低位継続および競合環境の激化により販売数量が減少
- ▶一方でGouda社の業績の寄与により、増収を確保
- ▶Gouda社の業績が寄与したことに加えて、原材料費の変動を適正に反映した価格設定やコストダウン等を進めたことによりEBITDA・営業利益共に増益

<今後の課題>

- ▶生産プロセスの効率化および安価原料の調達によるコストダウンの徹底
- ▶国内の非鉄・工業炉分野でのより一層のシェア拡大
- ▶カーボンニュートラルへの取組みの一環であるGreen Refractory※の市場への浸透
- ▶グローバルネットワークを駆使した拡販
- ▶新たなM&AやJV等の検討

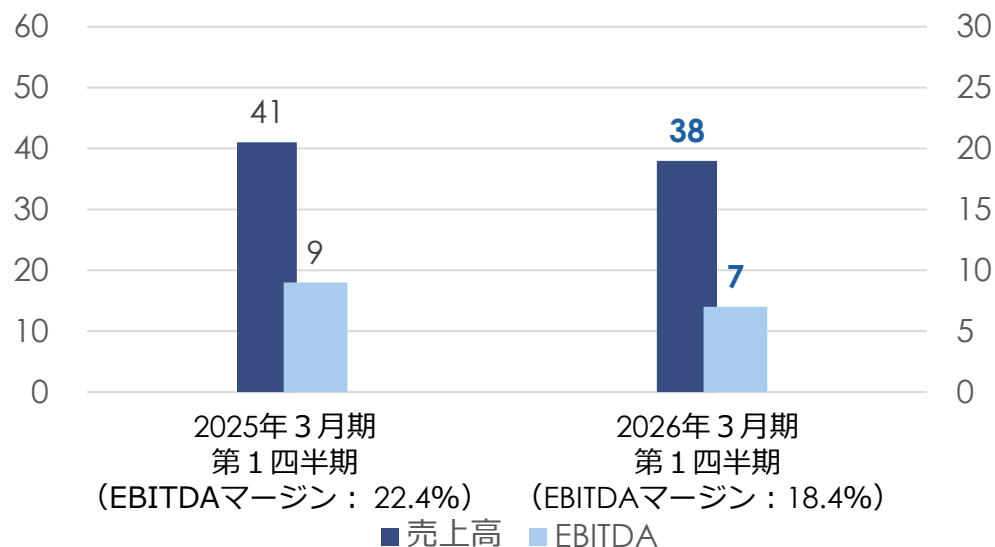
※ Green Refractory：使用後耐火物などCO2排出量を実質ゼロと見做せる原料（グリーン原料）を20%以上活用した製品

5. セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	41	38	▲2 (▲6.3%)
EBITDA	9	7	▲2 (▲23.1%)
営業利益	7	5	▲2 (▲30.4%)
EBITDAマージン	22.4%	18.4%	- (▲4.0Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶国内外において受注案件の拡大に取り組んだものの、欧州および中国市場の需要減速に伴う海外グループ会社の業績悪化や、国内の改修案件が端境期で耐火断熱レンガの販売数量が減少したこと等により、減収・減益
- ▶各種工事案件の増加等により、第2四半期以降セラミックファイバー製品の販売増加が見込まれることから、業績は回復する見通し

<今後の課題>

- ▶成長市場向けの製品開発強化および需要の捕捉（半導体製造装置関連製品・燃料電池用部材等）
- ▶建築向け防火用・耐火断熱ファイバーの拡販
- ▶国内外への超断熱製品（LTCシリーズ）の市場浸透
- ▶耐火物・断熱材セクターの協業による海外展開の加速（インド・中東および南米地域での鉄鋼・非鉄・石油化学プラント等への参入）

6. セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	10	9	▲0 (▲7.2%)
EBITDA	1	0	▲0 (▲87.1%)
営業利益	0	▲0	▲0 (- %)
EBITDAマージン	9.8%	1.4%	- (▲8.4Pt)

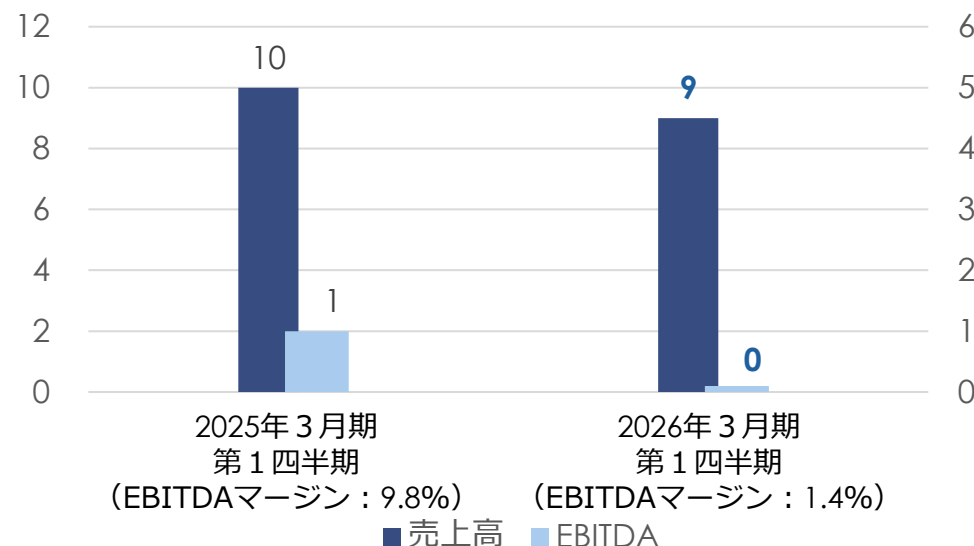
「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ ファインセラミックス製品の拡販を推進したものの、半導体製造装置関連製品において、需要の増加が未だ本格化していないことに加え、お客様の在庫調整の影響で販売数量が減少し、減収・減益

<今後の課題>

- ▶ 今後拡大が見込まれる半導体製造装置関連製品の需要の確実な捕捉
- ▶ 各分野向け耐摩耗部材の製品開発強化および拡販
- ▶ 無機塗料・無機接着剤製品の販売強化
- ▶ 半導体製造装置関連サービスにおける事業領域の拡大
- ▶ 生産基盤の再構築および生産能力の向上に向けた新工場立上げ（2026年2月の稼働に向けて建設中）

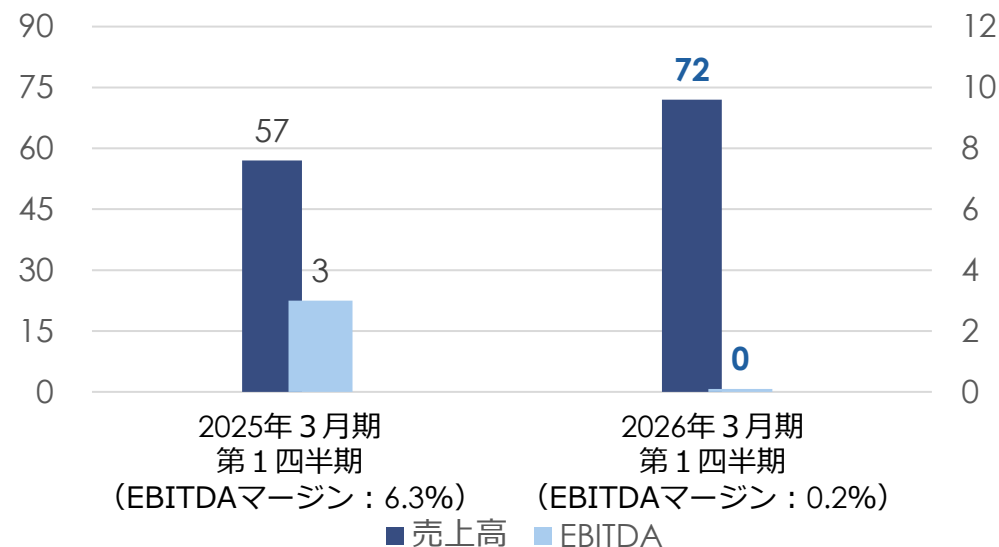


7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	57	72	+15 (+26.3%)
EBITDA	3	0	▲3 (▲96.7%)
営業利益	3	▲0	▲3 (- %)
EBITDAマージン	6.3%	0.2%	- (▲6.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ 製鉄所構内の大型工事案件の工事進捗に伴う売上計上により、増収
- ▶ 一方で、Reframax社の買収に伴う一過性の関連費用計上（4億円）により、減益。**一過性費用を除くと EBITDA・営業利益共に増益**

<今後の課題>

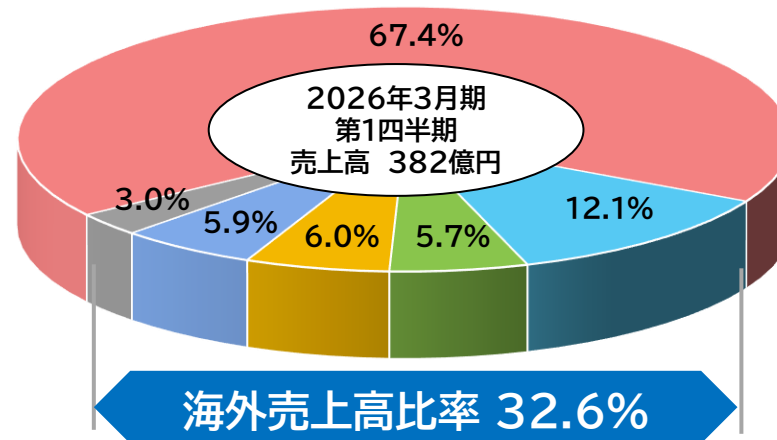
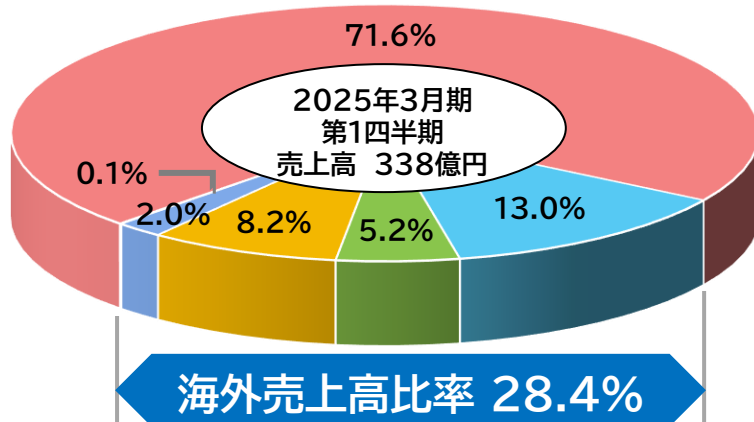
- ▶ カーボンニュートラル案件（大型電気炉、カーボンリサイクル高炉）への確実な対応
- ▶ 大型建設工事案件（熱風炉・コークス炉等）の受注獲得
- ▶ 高度な技術を要する工業炉分野（カーボン焼成炉等）での受注拡大
- ▶ 新技術の導入による築炉作業等の負荷軽減および効率化（ドローン活用等）
- ▶ Reframax社との技術連携によるエンジニアリング事業の強化・拡大

8. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
日本	242 [71.6]	257 [67.4]	+6.4%
アジア・オセアニア	43 [13.0]	46 [12.1]	+5.4%
北米	17 [5.2]	21 [5.7]	+22.7%
南米	27 [8.2]	22 [6.0]	△17.3%
欧州	6 [2.0]	22 [5.9]	+237.5%
その他海外	0 [0.1]	11 [3.0]	+4069.2%
合計	338 [100.0]	382 [100.0]	+13.0%

注: []内は、地域別の売上高構成比(%)



当第1四半期の海外売上高比率は、前年同期比で4.2%上昇し33%となった。お客様の活動水準の低位継続および競合環境の激化により南米地域の売上高が減少したが、新たに加わったオランダのGouda社の業績が寄与したことで、欧州およびその他海外地域の売上高が増加。なお、Gouda社およびReframax社の業績が年間を通じて寄与した場合、海外売上高比率は約45%に達する見込み。

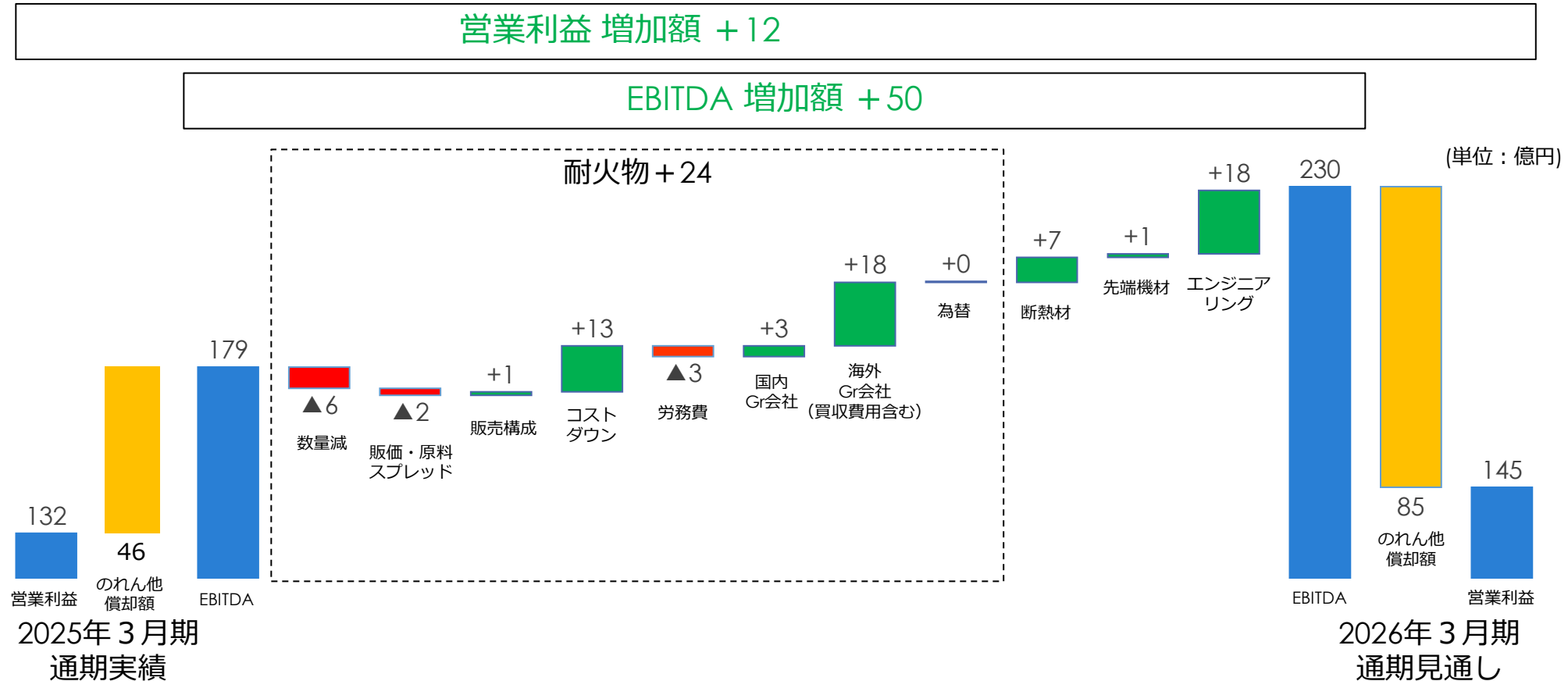
9. 2026年3月期の通期業績見通し

(単位：億円)

	2025年3月期 通期 実績	2026年3月期 通期 見通し (5/15公表)	2026年3月期 通期 見通し (8/8公表)	増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	売上高	1,440	1,740	+319	+20
	EBITDA	179	225	+50	+5
	営業利益	132	135	+12	+10
	経常利益	136	135	+8	+10
	親会社株主に帰属 する当期純利益	97	80	▲12	+5
<指標>	EBITDAマージン	12.5%	12.9%	+0.6pt	+0.2pt
	ROS（営業利益率）	9.2%	7.8%	▲1.0pt	+0.4pt

- 2026年3月期の前提国内粗鋼生産量は微減としている。但し、見通しは困難であり、変動リスクを伴う状況。
- 厳しい事業環境が継続することが予想されるが、Gouda社およびReframax社の業績が寄与することにより、大幅な増収見込み。さらに、グローバルネットワークを活用した拡販活動の推進、生産プロセスの効率化および安価原料の調達によるコストダウン等により、EBITDAは増益を図る。
- 第2四半期累計期間において、耐火物セクターにおける拡販およびコストダウン効果、並びにエンジニアリングセクターにおける工事案件の増加が見込まれることから、業績見通しを上方修正（本日8/8公表）。

10. 2026年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）

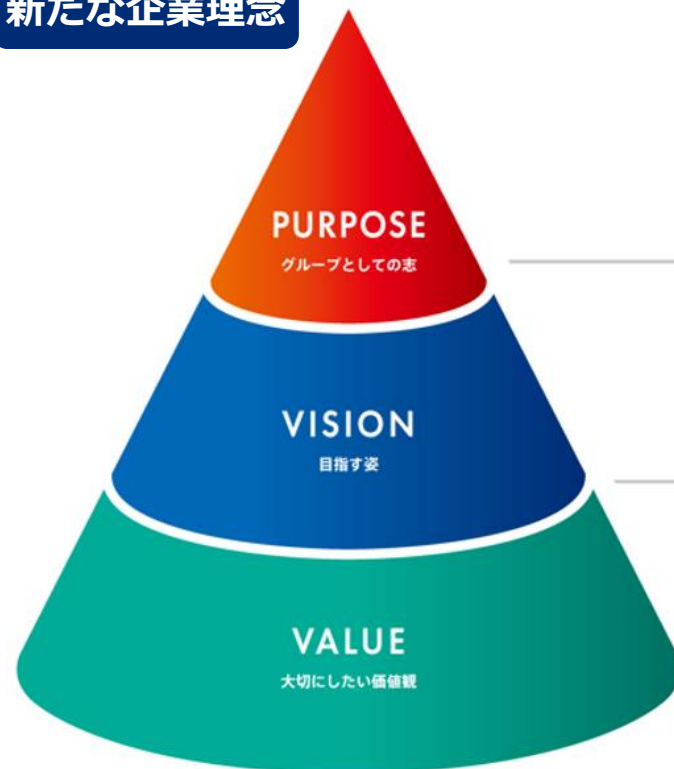


国内の粗鋼生産および海外のお客様の活動水準等によるマイナス影響が予想されるが、コストダウンの徹底、セクター横断的なグローバルネットワークを駆使した拡販、Gouda社およびReframax社の業績が寄与すること等の見込みにより、EBITDAは+50億円の増益、営業利益はのれん他償却額を勘案して、+12億円の増益見通し。

11. トピックス①（企業理念の再構築）

- 2025年10月、当社は創業150周年を迎えます。これに伴い、当社グループが**持続的な成長と企業価値の最大化を目指していく**ための指針として、企業理念を**3つの階層**で再構築しました。

新たな企業理念



PURPOSE

セラミックスで「最適」を実現する

セラミックス技術でお客様に最適なソリューションを提供し
世界の産業と社会の発展に貢献します

当社グループの「志」です。当社の祖業である耐火物だけでなく、断熱材、先端機材、エンジニアリングの領域も含めた「セラミックス技術」により PURPOSEの実現を目指します。

VISION

私たちはグループとして目指す姿を共有し、その実現に努めます

グローバルなソリューション展開によって成長し続ける
従業員が自己の成長と心豊かな生活を楽しめる職場を作る
事業を通じてより良い環境と社会を未来世代に継承する

PURPOSEの実現を通じて我々がどのような企業グループになりたいのか、VISIONとして3つの目指す姿を表明しています。

VALUE

私たちは大切にしたい価値観をグループで共有します

挑戦 失敗を恐れず、勇気を持って挑戦します
迅速 素早く決断し、迅速に取り組みます
柔軟 変化に柔軟に対応し、やり方を見直します
徹底 やると決めたら、徹底して取り組みます
連携 社内外の人や組織と積極的に連携します

PURPOSEとVISIONを実現するためにグループ全体で共有する5つの行動原則をVALUEとしています。

新たな企業理念に基づき、当社グループは今後も革新と挑戦を続けていきます。

12. トピックス②（社名変更および新たな企業ロゴの制定）

社名の変更

新社名（2025年10月1日以降）

品川リフラ株式会社
(英文：SHINAGAWA REFRA CO.,LTD.)

耐火物を意味する「リフラクトリーズ」▶「リフラ」（造語）

- ・耐火物だけでなく、断熱材、先端機材、エンジニアリングの各事業にも注力していくという意志を表現
- ・"SHINAGAWA"という国内外に通用するブランドを残しつつ、短くて覚えやすく、親しみやすい社名にすることで企業認知度の向上も狙う

12. トピックス②（社名変更および新たな企業ロゴの制定）

新たな企業ロゴの制定

新たな企業ロゴ（2025年10月1日以降）

【コーポレートロゴ】



【当社グループロゴ】

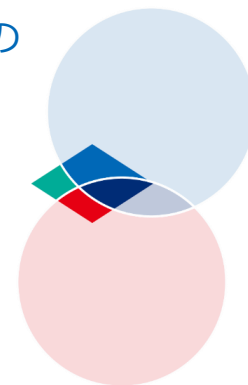


新デザインに込めた思い

- ・ ひし形（当社創業以来のシンボル）を継承
- ・ 赤色（祖業である耐火物）、青色（耐火物以外の事業）、これに緑色（自然環境を象徴）を追加
- ・ 赤い円（耐火物）と青い円（耐火物以外の事業）が交わる箇所の色



当社グループが事業の融合、人・組織・会社間の連携を通じてグローバルに成長する躍動を表すコーポレートカラー「**SHINAGAWA BLUE**」として、新たな社名ロゴタイプにも使用



ご注意

本資料は、2026年3月期第1四半期決算（2025年4月～2025年6月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2025年8月8日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。